

タイ伝統芸術舞踊の舞踊技法に関する研究 — 上肢・下肢以外の身体部位に関する舞踊技法用語を中心に —

中野 真紀子

A study of the techniques of Thai traditional art dancing:
Mainly on the terms of dancing techniques concerning the body parts except arms and lower limbs

NAKANO, Makiko

要旨

本研究はタイ伝統芸術舞踊の舞踊技法研究の基礎として位置付けられる。拙稿「タイ伝統芸術舞踊の舞踊技法に関する研究—上肢に関する舞踊技法用語を中心に—」(2008)及び「タイ伝統芸術舞踊の舞踊技法に関する研究—下肢に関する舞踊技法用語を中心に—」(2009)において、上肢舞踊技法用語から上肢の動作特性を、下肢舞踊技法用語から下肢の動作特性を明らかにした。本研究は継続研究として、上肢・下肢以外の身体部位の舞踊技法用語に注目し、それら身体部位の動作特性を明らかにしようとするものである。

上肢・下肢以外の身体部位に関する舞踊技法用語は、頭、顔、首、肩と座る姿勢に関する用語に分けられたが、上肢・下肢の舞踊技法用語に比べて数は少なかった。

頭、顔、首、肩に関する用語の中には、各部位が互いに連動して動きをなすものが多く、似通っていたが、それぞれの技法は微妙な差異を区別していた。また、これらの技法は共通して曲線的な動きが特徴となっていた。この曲線的な動きの微妙な差異は、タイ伝統芸術舞踊の表現性をより繊細なものとし、奥行きを与える要因となっていると考えられる。

以上の動作特性の結果に、更に上肢技法、下肢技法との関連から考察を進め、以下のように推察した。上肢の曲線美に頭、顔、首、肩の曲線的な動きが伴うことで、上体の動作は、滑らかで柔らかな流麗さや優美さといった表現性が増幅すると考えられる。また、上肢の曲線と下肢の角というコントラストを具えたタイ伝統芸術舞踊の型に、頭、顔、首、肩の曲線的な動きが付随することにより、タイ伝統芸術舞踊の厳格な形式美は、さらに繊細で微妙な味わいが付加され、より立体感をもって立ち現われると考えられる。これらを実証するには、これまでの舞踊技法用語に関する研究結果を踏まえ、実際の舞踊作品の中で舞踊技法を分析することが必要であり、今後の研究課題としたい。

I. はじめに

本稿は、タイ伝統芸術舞踊の舞踊技法に関する継続研究である。筆者は、舞踊技法からタイ伝統芸術舞踊の動作特性を導くべく、技法の詳細な調査・分析を課題としてきた。そして、タイ伝統芸術舞踊の厳格な継承を支える伝承言語として重要な機能を果たしてきた舞踊技法用語に着目した。既に、拙稿「タイ伝統芸術舞踊の舞踊技法に関する研究—上肢に関する舞踊技法用語を中心に—」(中野;2008)及び「タイ伝統芸術舞踊の舞踊技法に関する研究—下肢に関する舞踊技法用語を中心に—」(中野;2009)において、上肢及び下肢の舞踊技法用語についてそれぞれ意味を解明し、上肢技法・下肢技法の動作特性について考察した。具体的には以下の通りである。

上肢の舞踊技法用語は、その用語に表された形や動きを見ると、高さ、方向、距離など、空間に占めるポジションを厳密に規定することにより、形も動きも限定していた。また、似通って見える動きについても、回旋方向によって、また、手首や腕の運動の微妙なニュアンスの違いによって用語を使い分けていた。つまり上肢技法は繊細な表現性を有しており、それが厳密

に細かく規定されているという意味において、顕著に発達していた。それに対して、下肢の舞踊技法用語に表された形、動き、足運びは、技巧的には単純であった。しかし下肢技法も厳密に規定されており、上肢と同様限定的であった。上肢・下肢の形や動きが厳密に規定されることにより、タイ伝統芸術舞踊の厳格な型¹⁾が形成されると考えられる。

更に、上肢技法は、腕のカーブや手首の回旋運動が多用されており、手の形や軌跡を見ると、全体的に曲線的なものが多い。この柔らかい曲線美と対照的に、下肢技法は形や動きに直線的な角を含んでいることが特徴となっており、このコントラストがタイ伝統芸術舞踊の形式美となっている。

本研究は、その継続研究として、上肢・下肢以外の身体部位に関する舞踊技法用語について詳細に調べ、タイ伝統芸術舞踊の舞踊技法研究の資料としたい。

II. 目的

タイ伝統芸術舞踊の上肢・下肢以外の身体部位に関する舞踊技法用語の意味を解明し、技法の動作特性を明らかにし、タイ

表1 上肢・下肢以外の身体部位に関する舞踊技法用語

i 頭に関する用語
①イアン ^ツ ・シーサ〔頭を傾ける〕
ii 顔に関する用語
①グローム・ナー〔顔を円く動かす〕
iii 首に関する用語
①ラツ ^ツ ・コー〔ラツ ^ツ :くすねる, コー:首〕
iv 肩に関する用語
①イアン ^ツ ・ライ〔肩を傾ける〕
②ゴツ ^ツ ・ライ〔肩を押す〕
③ヤツ ^ツ ・ライ〔肩を上下に動かす〕
④グローム・ライ〔肩を円く動かす〕
⑤ユアン ^ツ ・ライ〔肩をねじる〕
⑥ティー・ライ〔肩をよじる〕
v 胴体に関する用語
①ヨー・トゥア〔体を傾ける〕
vi 座る姿勢に関する用語
①ナン ^ツ ・クツ ^ツ ・カウ〔膝を曲げて座る〕
②ナン ^ツ ・グラドツ ^ツ 〔座った姿勢でのグラドツ ^ツ 〕
③グラトツ ^ツ ・ゴン〔臀部をかち合わせる〕

*番号は本文の番号を示す。

伝統芸術舞踊の舞踊技法研究の基礎的な資料とする。

Ⅲ. 方法

タイ語文献により舞踊技法用語について調べ、上肢・下肢以外の身体部位に関するものを抽出する。意味を読み解く作業と、実際に用語が示す形や動きを確認する作業により動作特性を導き出す。

なお、タイ語には日本語の発音にない音や声調があるため、正確にカタカナ表記できない。そのため、本稿におけるタイ語のカタカナ表記については、なるべくタイ語の発音を意識して以下のようにしたい。母音の後のk, t, p, ŋの子音の発音については殆ど音として聞こえないため、下付文字で表記する。

Ⅳ. 上肢・下肢以外の身体部位に関する舞踊技法用語

文献より、タイ伝統芸術舞踊²⁾の舞踊用語³⁾の中から上肢・下肢以外の身体部位に関する舞踊技法用語をできる限り抽出した。それらは、頭に関する用語、顔に関する用語、首に関する用語、肩に関する用語、胴体に関する用語、座った姿勢に関する用語に分けられた。(表1) それぞれについては以下に示す

通りである。(写真:チャナダー・ガンニーウォン氏)

i 頭に関する用語

①イアン^ツ・シーサ〔頭を傾ける〕

顔と首を真っ直ぐに立て、前方を見る。片側に少し頭を傾ける。耳と肩がずれないように頭をしっかり支え、顔がねじれないように気をつける。



ii 顔に関する用語

①グローム・ナー〔顔を円く動かす〕

顔と頭の動かし方。まず、前方の一点を真っ直ぐに見る。右から始めると仮定する。右に頭を傾ける。顔の面が下を向いたり上を向いたりしないように保つ。そこから段々と顎を左側に向けていく。このとき、右耳の付け根のところを押しやるようにして、顔をゆっくりとそむけていく。それから少しずつチェンジし、最後に頭は左に傾く。



iii 首に関する用語

①ラツ^ツ・コー〔ラツ^ツ:くすねる, コー:首〕

首の動かし方。頭が右に傾くとき右肩左上肩下に傾き、頭が左に傾くとき左肩右肩下に傾くように首を使う。



iv 肩に関する用語

①イアン^ツ・ライ〔肩を傾ける〕

肩の動かし方。傾けるほうの肩に適当な重さの錘が肩先に置いてあるような感じで下に傾ける。反対の肩が上がらないようにする。



②ゴット・ライ〔肩を押す〕

例えば「イーッ・チャー」⁴⁾の型において、右手は右肘を伸ばしてタンッ・ムー⁵⁾にし、右肩がイアンッ・ライ(iv①参照)になっている。そこから次のポーズに移行する際、傾いている右肩をさらに押すように下げ、傾ける。このときの右肩の動作がゴット・ライ〔肩を押す〕である。



③ヤッ・ライ〔肩を上下に動かす〕

肩と首の動かし方。脇の下を使って左右の肩を交互に下げる。右肩を下げたら頭は左に傾ける。次に左肩を下げたら同時に頭は右に傾ける。このときもう一方の肩は上がらないようにする。



④グローム・ライ〔肩を円く動かす〕

頭と肩の動かし方。右肩から始めると仮定する。まず右肩を下に傾け、頭も右に傾ける。そこから徐々に左を向いていくような感じでゆっくりと肩を回し、左肩を下げ傾け、頭も一緒に左に傾く。このとき右肩が円を描くように動かなければならない。右左交互に行う。



⑤ユアンッ・ライ〔肩をねじる〕

「グワーンッ・ダーン・ドンッ」⁶⁾の型に見られる肩の動かし方。片方の肩を落とし、同じ側に頭を傾ける。そこからわずかに円を描くように動かす感じでチェンジし、もう一方の肩を落とす。このとき、頭は肩よりも少し遅れてラッッ・コー(iii①参照)になる。



⑥ティー・ライ〔肩をよじる〕

肩の動かし方。右肩から始めると仮定する。右肩を下げると同時に頭を左に傾ける。そこから徐々に右肩を後方に回していく。それに従って頭を右に傾けていく。このとき、眼はずっと前方の1点を真っ直ぐ見ていなければならない。肩は元に戻ってきて右肩下に傾く。頭は少しずれて左に傾く。右左交互に行う。



v 胴体に関する用語

①ヨー・トゥア〔体を傾ける〕

体を右に傾けると同時に体重を右に移し、体を左に傾けると同時に体重を左に移す。ヨー・トゥアするとき、クロスした前方と後方の両足で体重を支えるのを助けるために、常に膝を曲げて腰を低くした状態で歩かなければならない。



vi 座る姿勢に関する用語

①ナンッ・クッ・カウ〔膝を曲げて座る〕

膝を曲げて膝頭を床に付けて座る姿勢。両踵を付け、男役(ブラ)⁷⁾は両膝頭を25センチ程離す。女役(ナーンッ)は両膝頭を付

ける。臀部を両踵の上に等しく体重がかかるように置き、体を真っ直ぐに保つよう腰を据え、両肩を開き、顔を真っ直ぐに立て目は前方を見る。両手は中指の先を膝頭の方向に向けて両腿の上に置き、指先をぴんと張り、腕は適度に曲げる。

女役(ナーンッ)

前向き



後ろ向き



②ナンッ・グラドッ [座った姿勢でのグラドッ]

ナンッ・クッ・カウから左脚をグラドッ⁸⁾すると仮定する。左脚を曲げ折りたたむようにして、ふくらはぎをできるだけ太腿部と重なるようにする。そして足の親指がむこうずねに向くように足首を折る。足の裏が右や左に傾かないようにする。足の指は5本ともぴんと張る。両方の膝頭を土台とする。



③グラトッ・ゴン [臀部をかち合わせる]

腰でリズムを刻む。このグラトッ・ゴンは、大抵ポーズ(ター・ラム)から別のポーズ(ター・ラム)へ移行するとき⁹⁾に用いる。まずナンッ・クッ・カウ(vi①参照)で座る。臀部を踵の上に置き、体を真っ直ぐに保ち、腰と背中を緊張させる。臀部を真っ直ぐ上に僅かに持ち上げる。このとき体を前方に突き出さないように気をつける。そこから適度な強さで元の位置、つまり踵の上に臀部を下ろす。



V. 結果

以上、文献より上肢・下肢以外の身体部位に関する舞踊技法用語を抽出し、それらの意味を解明し、更に実際に舞踊技法を再現し確認することを通して、以下の点が明らかになった。

1. 上肢・下肢以外の身体部位に関する舞踊技法用語は、頭に関する用語が1個、顔に関する用語が1個、首に関する用語が1個、肩に関する用語が6個、胴体に関する用語が1個、座る姿勢に関する用語が3個、合計13個確認された。(表1)
2. 同じ性質をもった動作について部位の使い分けがされていた。(表2(1)(2))例えば、イアンッ・シーサ [頭を傾ける] とイアンッ・ライ [肩を傾ける] はともに傾く動作を示している。また、グローム・ナー [顔を円く動かす] とグローム・ライ [肩を円く動かす] はともに軌跡が横8の字を描くように動かす動作である。これらのように身体部位を区別することにより、動作の大きさの微妙な差異を使い分けられていることが分かる。
3. 肩に関する用語は、肩と頭の傾きが同じ側か反対側かを区別し、その上で更に微妙な差異を詳述していた。(表2(3))例えば、肩と頭の傾きが反対側である関係をラッ・コー [ラッ：くすねる, コー：首] と呼ぶ。それとヤッ・ライ [肩を上下に動かす], ユアンッ・ライ [肩をねじる], ティー・ライ [肩をよじる] の技法の解説はみな似通っていたが、肩の動きの微妙な差異を区別し限定することによって、それぞれ別の呼称を当てていた。舞踊技法用語の呼称に日本語訳を当てるとかえって分かりにくくなってしまい、混乱を来す。
4. 頭、顔、首、肩に関する舞踊技法用語の多くが、実際は用語に示された部位単独の動きではなく、他の部位と連動した

表2 頭、顔、首、肩の舞踊技法用語

(1) 部位が片側に傾く動き	部位
i ①イアンッ・シーサ [頭を傾ける]	頭
iv ①イアンッ・ライ [肩を傾ける]	肩
iv ②ゴッ・ライ [肩を押す]	肩
(2) 横8の字を描く動き	
ii ①グローム・ナー [顔を円く動かす]	顔
iv ④グローム・ライ [肩を円く動かす]	肩
(3) 頭・顔・首と肩が反対側に傾く、もしくは傾き にずれが生ずる動き	
iii ①ラッ・コー [ラッ：くすねる, コー：首]	首
iv ③ヤッ・ライ [肩を上下に動かす]	肩
iv ⑤ユアンッ・ライ [肩をねじる]	肩
iv ⑥ティー・ライ [肩をよじる]	肩

*番号は本文の番号を示す。

動きになっていた。例えば、ヤッ・ライ〔肩を上下に動かす〕は、右肩を下げたら頭は左に傾け、左肩を下げたら頭は右に傾けるといように、肩と首の関係が重要になっている。

5. 頭、顔、首、肩、胴体に関する舞踊技法用語が示す動作は、運動エネルギーはどれも小さく、空間に占める部位の移動も小さかった。全体的に曲線的な動きが多い。
6. 座る姿勢に関する用語は、形を表すものが2個、ポーズから別のポーズへ移行するときの区切りとしてリズムを刻むものが1個、合計3個あった。
7. 座る姿勢に関する用語のグラトツ・ゴン〔臀部をかち合わせる〕の動作は、運動エネルギーは僅かであり、また空間に占める部位の移動も僅かであった。

VI. まとめ

(1) 上肢・下肢以外の身体部位技法の動作特性

上肢・下肢以外の身体部位の舞踊技法用語の意味を解明し分析した結果、上肢・下肢以外の身体部位技法の動作特性として以下のことが言える。

上肢・下肢以外の身体部位の舞踊技法用語は、合計13個抽出できた。用語で表された形や動きはどれも運動エネルギーは小さく、空間に占める部位の移動も小さかった。

頭、顔、首、肩に関する用語の中には、各部位が互いに連動して動きをなすものが多く、似通っていたが、それぞれの技法は微妙な差異を区別していた。また、これらの技法は共通して曲線的な動きが特徴となっていた。この曲線的な動きの微妙な差異は、タイ伝統芸術舞踊の表現性をより繊細なものとし、奥行きを与える要因となっていると推察される。

さらに、頭、顔、首、肩、胴体に関する舞踊技法に関して、実際の動作の再現を試みた結果、微妙な差異を正確に再現することは難しいと思われた。顔や肩で描く曲線的な動きは、正確な軌跡を滑らかに柔らかに描くことにおいて難度が高く、熟練度によって個人の力量差の出るところではないかと考えられる。

(2) 上肢・下肢以外の身体部位の技法と上肢技法、下肢技法との関連

以下、上肢技法、下肢技法と関連させて更に考察を進める。

上肢・下肢以外の身体部位の舞踊技法用語は、合計13個であった。上肢に関する舞踊技法用語が33個、下肢に関する舞踊技法用語が25個であったので、それらと比べると数は多くない。数から言っても格段に上肢技法の発達が読み取れる。

上肢技法・下肢技法によって上肢・下肢の形や動きが厳密に規定されることにより、タイ伝統芸術舞踊の厳格な型が形成されると考えられた。そして上肢技法の柔らかい曲線美と対照的に、下肢技法は形や動きに直線的な角を含んでいることが特徴となっており、このコントラストがタイ伝統芸術舞踊の形式美

となっていることは先述した。上肢・下肢以外の身体部位に関する舞踊技法用語も微妙な差異を詳述することにより、動作を限定していた。さらに頭、顔、首、肩の技法は曲線的な動きが特徴であり、繊細な表現性を生む要因となることが推察された。

これらのことから、上肢・下肢・その他の身体各部位の技法が統合されることにより、さらに以下のことが推察できる。上体の動作は、上肢の曲線美に加え頭、顔、首、肩の曲線的な動きが伴うことで、滑らかで柔らかな流麗さや優美さといった表現性が増幅すると考えられる。また、上肢の曲線と下肢の角というコントラストを具えたタイ伝統芸術舞踊の型に、頭、顔、首、肩の曲線的な動きが付随することによって、タイ伝統芸術舞踊の厳格な形式美は、さらに繊細で微妙な味わいが付加され、より立体感をもって立ち現われると考えられる。これらを実証するには、これまでの舞踊技法用語に関する研究結果を踏まえ、実際の舞踊作品の中で舞踊技法を分析することが必要であろう。

VII. 今後の課題

拙稿「タイ伝統芸術舞踊の舞踊技法に関する研究—上肢に関する舞踊技法用語を中心に—」（中野；2008）及び「タイ伝統芸術舞踊の舞踊技法に関する研究—下肢に関する舞踊技法用語を中心に—」（中野；2009）に続き、本研究において上肢・下肢以外の身体部位に関する舞踊技法用語を解明したことにより、タイ伝統芸術舞踊の舞踊技法用語の全容を解明した。

今後の課題としては、まず頭、顔、首、肩、胴体の形や動きについて、実際の舞踊作品を取り上げ、今回明らかにした舞踊技法用語と照合し検証する作業をしなければならない。さらに、上肢技法、下肢技法の結果と合わせて、身体各部位の技法が実際の舞踊の構造においてどのように関連し、舞踊運動を構成しているのかについて詳細に調べなければならない。実際の舞踊作品において舞踊技法を分析することにより、タイ伝統芸術舞踊の表現性についてさらに追究していきたい。

謝辞

本研究はJSPS科研費24652044の助成を受けたものです。タイ伝統芸術舞踊の研究に際し、ウィタヤライ・ナータシン（タイ国立舞踊芸術専門学校）の諸先生方にご協力頂いております。また、本研究の技法用語の確認作業及び映像記録において、Chanutda (Waraporn) Kanneewong氏（タイ国立舞踊芸術専門学校卒。元、タイダンスグループワラポンロイヤルタイ舞踊団主宰。）にご協力頂きました。深く感謝申し上げます。

註

- 1) 本稿では、「形」はいわゆる「形状」の意で用い、「型」は「タイ伝統芸術舞踊で規定された特定の形」の意で用いることとする。
- 2) タイ語で「ナータシン」(ナータ：舞踊, シン：芸術)に当たる概念に、この訳語を当てた。
- 3) タイ語で「ナータヤサツ」 という。
- 4) タイ伝統芸術舞踊の基本舞踊メー・ボツに出てくる型の名称。タイ語の意味は、イー：もつと、チャー：ゆっくりで、「もつとゆっくり」。
- 5) タンツ・ムーは上肢技法の一つ。タイ語の意味は、タンツ：立てる、ムー：手で、「手を立てる」。親指以外の4本を伸ばし、揃えて付け、4本の指が真っ直ぐ立つように手首を折り、親指は軽く折って手のひらの前に置いた形。
- 6) タイ伝統芸術舞踊の基本舞踊メー・ボツに出てくる型の名称。タイ語の意味は、グワーンツ：鹿、ダーン：歩く、ドンツ：森で、「鹿が森を歩く」。
- 7) タイ伝統芸術舞踊では、男役を「ブラ」、女役を「ナーンツ」という。
- 8) 下肢に関する舞踊技法用語の一つ。膝と足を後ろに上げる形。片足で重心を支えて立ち、もう一方の足は膝を折って後方に上げる。足首を折って足の甲をすねに向ける。
- 9) タイ伝統芸術舞踊には、ター・ラム(ター：姿勢、ラム：踊り)という概念がある。タイ伝統芸術舞踊の構造を見ると、ター・ラムからター・ラムへ(一つの型から別の型へ)の移行が確認でき、構造上の特徴となっている。

参考文献

日本語文献

- 1) 蒲生郷昭(2007) 技法用語から見た舞楽と能(第一四回[楽劇学会]大会演奏とシンポジウム舞う：舞楽と能), 楽劇学14, pp.46-57
- 2) 川田禮子; 三隅治雄(2004) 琉球舞踊：その伝統技法と特色 (<02年芸能セミナー>講演), 年刊藝能10, pp.91-105
- 3) 中野真紀子(1995) タイ舞踊の表現性—厳格な形式美の継承—, 女子体育37(3), pp.52-56
- 4) 中野真紀子(1999) タイの仮面舞踊劇コーン, 女子体育41(10), pp.59-60
- 5) 中野真紀子(2008) タイ伝統芸術舞踊の舞踊技法に関する研究—上肢に関する舞踊技法用語を中心に—, 聖徳大学研究紀要短期大学部第41号, pp.63 - 70

- 6) 中野真紀子(2009) タイ伝統芸術舞踊の舞踊技法に関する研究—下肢に関する舞踊技法用語を中心に—, 聖徳大学研究紀要短期大学部第42号, pp.55 - 62
- 7) 波照間永子(1997) 琉球古典舞踊「女踊り」における上肢動作の特性：伝承言語の分析を手がかりに, 日本体育学会 第48回大会, p.630
- 8) 富燦霞(2001) 京劇戯曲舞踊における写意の表現技法に関する研究：頭部と手の表現技法を中心に, 人間文化研究年報25, お茶の水女子大学人間文化研究科, pp.42-53
- 9) 富燦霞(2004) 台湾における京劇戯曲舞踊の基本技法研究—部位技法の原理, 舞踊学27, pp.13-25
- 10) 富燦霞(2007) 台湾における京劇戯曲舞踊の基本技法研究—全身の動きにみる身体表現の原理—, 演劇研究センター紀要Ⅷ早稲田大学21世紀COEプログラム(演劇の総合的研究と演劇学の確立)8, pp.225 - 238
- 11) 又吉静江(1997) 琉球舞踊における身体技法：「ガマク入れ」に関する研究, 沖縄県立芸術大学紀要5, pp.5-32
- 12) 丸茂美恵子(佑佳)(2006) 日本舞踊における奴形技法の体系化への試み, 日本大学芸術学部紀要43, pp.13-26

タイ語文献

- 1) พนิดา สิทธิธรรม (1979) รำไทย และ เบ็ดโรจนพรตพ, คณะบัณฑิตศึกษา มหาวิทยาลัยราชภัฏวชิรเวศน์ (1979) タイ舞踊と舞台上演, プライムスーンの家
- 2) เรณู โกศลพนันท์ (2001) นาฏศิลป์ทำนานาฏศิลป์ไทย, ไทยวัฒนาพานิช เลอเนอร์・ゴースイナーノン (2001) タイ伝統芸術舞踊の舞踊用語と型, タイワッターナーバーニット
- 3) เรณู โกศลพนันท์ (2002) นาฏศิลป์ไทย, ไทยวัฒนาพานิช เลอเนอร์・ゴースイナーノン (2002) タイ伝統芸術舞踊, タイワッターナーバーニット
- 4) สุนนมาลย์ นิ่มเนติพันธ์ (1989) การละครไทย, ไทยวัฒนาพานิช สมอนมาร์น・นิมเนตパン (1989) タイの演劇(舞踊劇), タイワッターナーバーニット
- 5) อากม สาขากม (2002) รวมงานนิพนธ์ ของ นายอากม สาขากม, กรมศิลปากร อาร์コム・サーヤーコム (2002) อาร์コム・サーヤーコム著作集, タイ国芸術局
- 6) อารมณ์ มนตรีศาสตร์ • จาตุรงค์ มนตรีศาสตร์ (1982) นาฏศิลป์เพื่อการศึกษามือเบื้องต้น, องค์การการศึกษา วิทยาศาสตร์ และ วัฒนธรรมแห่งสหประชาชาติ อาร์บอน・มอนตรี-サート, ギャートゥロン・モンتری-サート (1982) 初等教育のためのタイ伝統芸術舞踊, タイ国教師会商業会